

関西国際大学 人間科学部 学部規則

(趣旨)

第1条 この規則は関西国際大学学則第1条の2の規定に基づき、関西国際大学人間科学部（以下「本学部」という。）における教育研究上の目的その他必要な事項について定める。

(教育研究上の目的)

第2条 本学部は、人間の心理や行動ならびに社会生活を多視点から理解するための専門知識を習得し、人間や社会について科学的に理解し、問題の発見と解決を図る能力を持ち社会に貢献できる人間を育成するとともに、それを可能とする学術研究を行うことを目的とする。

(学科の構成及び教育目的)

第3条 本学部は、学則第3条に定める学科で構成する。各学科の教育目的は次のとおりとする。

(1) 人間心理学科

本学科では、心理学の知識や人間に対する科学的なとらえ方を学ぶことを通じて、人間を偏見や常識にとらわれずあるがままに理解する基礎的な力を身につけ、グローバルな環境に適応し社会に貢献できる人間の育成を目的とする。

具体的な教育目標は別表1に示す。

(2) ビジネス行動学科

本学科では、グローバル化が進行する社会において求められる世界市民としての汎用的な知識、技能、態度・志向性を身につけ、ビジネスに関わる諸現象を科学的・客観的に捉える視点を獲得し、ビジネス社会の変化に柔軟に適応できる力を身につけることを目的とする。

具体的な教育目標は別表2に示す。

(3) 経営学科

本学科では、グローバル化が進行する社会において求められる世界市民としての汎用的な知識、技能、態度・志向性を身につけ、経営に関する実践的な知識・技能を総合的に活用し、社会や組織活動に貢献できる人間の育成を目的とする。

具体的な教育目標は別表3に示す。

(到達確認試験)

第3条の2 本学部教育の質保証を充実し、学科の教育目標の達成を確認するため、到達確認試験を実施する。これについての詳細は、別に定める。

(学科会議)

第4条 本学部の各学科に学科会議を置く。

2 学科会議は、所属する専任教育職員で組織する。

3 学科長は、学科会議を招集し、その議長となる。

4 学科会議は、原則として毎月2回開催する。

(学科会議の審議事項)

第5条 学科会議は、学科の教育に関する次の事項を審議する。

(1) 授業科目及び単位に関する事項

(2) 履修方法及び履修指導に関する事項

(3) 学生の指導に関する事項

(4) その他学科運営に関する事項

(アドバイザー)

第6条 本学部各学科にアドバイザーを置く。アドバイザーは当該学科の専任教育職員をもってあてる。

2 アドバイザーは、学科の教育方針に沿って、学生の教育指導及び学生生活指導、キャリア教育その他学生からの相談を担当する。

3 アドバイザーは、担当学生について必要に応じ学科会議に報告し指導方法等について協議しなければならない。

4 アドバイザーは、学修支援センター、学生委員会等と連携し学生の指導にあたるものとする。

附 則

1 この規程は平成20年4月1日から施行する。

2 平成19年4月1日以前の学科に所属する学生が在籍する間のそれぞれの学科に関する審議事項は、当該審議事項に係る学科会議がこれを審議する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

別表1 人間心理学科の教育目標

KU I S学修ベンチマークに掲げている自律性、社会的貢献性、多様性理解、コミュニケーション能力、問題解決能力、といったグローバルな環境に適応し社会に貢献するための基礎的な力を、教育課程全体を通じて育成するとともに、専門科目を通じて以下の4つの力を身につけ、総合的に活用できることを目的とする。

- (1) 心理学的な視点と理論に基づき、人間の心理を客観的に説明することができる
- (2) 人間の心理的・社会的問題を実証的に把握できる
- (3) 集団行動のメカニズムを理解し、コミュニケーションを取ることができ、集団をマネジメントできる
- (4) 知り得た知識、経験を総合化し、実際の生活で活用できる

| レベル 目標 | レベル4 | レベル3 | レベル2 | レベル1 |
|---|--|--|---|---|
| 心理学的な視点と理論に基づき、人間の心理を客観的に説明することができる | 人間の心理的諸現象に対し複数の理論を適用して説明した上で最適な解釈を提言できる | 人間の心理的諸現象に対し個別の理論を適用して説明できる | 心理学の主要な理論が理解でき、説明できる | 心理学の概念と専門用語が理解できる |
| 人間の心理的・社会的問題を実証的に把握できる | 人間の心理的・社会的諸問題を実証的方法で把握・分析し、その問題の解決に向けた方策を提言できる | 人間の心理的・社会的諸問題を適切な方法で実証的に把握し、分析できる | 与えられた課題に対し、科学的なデータ収集を設計・実施できる | 人間の心理的・社会的諸問題を客観的に捉える方法について理解できる |
| 集団行動のメカニズムを理解し、コミュニケーションを取ることができ、集団をマネジメントできる | 集団行動を通じて問題を発見し、その解決方法を提案した上で、実際にグループをマネジメントして解決策を実践できる | 集団行動を通じて問題を発見し、問題解決の方法を提案できる | 集団行動を通じて問題を発見し、集団内における自分自身の持ち味を理解できる | 与えられた課題の解決に必要な集団行動を取ることができる |
| 知り得た知識、経験を総合化し、実際の生活で活用できる | 知識・経験・振り返りの成果を総合化し、体系的にまとめた上で、生活上の具体的な問題の解決に活用することができる | 教室内外で学修した知識と、自らの経験とその振り返りの成果を総合化し、体系的にまとめることができる | 教室内外で学修した知識と実習等の経験を結び付けて振り返り、定められた形式でまとめることができる | これまでに学修した知識や経験をまとめて、学修ポートフォリオ等に記録としてまとめ、自己分析をすることができる |

別表2 ビジネス行動学科の教育目標

共通教育科目を通じて修得をめざす、自律性、社会的貢献性、多様性理解、コミュニケーション能力、問題解決能力といったKUIS学修ベンチマークに掲げたグローバルな環境に適応し社会に貢献するための基礎的な力を、専門科目を通じてさらに育成するとともに、専門科目を通じて以下の3つの力を身につけ、総合的に活用できることを目的とする。具体的には、専門科目を通じて

- (1) 組織経営の仕組みを理解できる
- (2) 人間個人や組織の特性を心理学的な視点から理解できる
- (3) ビジネスに関わるさまざまな現象を実証的な方法論を活用して把握できる

といった力を総合的に活用できることをめざす。

| レベル 目標 | レベル3 | レベル2 | レベル1 |
|-----------------------------------|---|--------------------------------|---------------------------------|
| 組織経営の仕組みを理解できる | 組織経営の具体的ケースについて問題点を指摘し、改善策を提案できる | 組織経営の具体的ケースについて、成功と失敗の要因が理解できる | 組織経営におけるヒト・モノ・カネ・情報の基本的機能が理解できる |
| 人間個人や組織の特性を心理学的な視点から理解できる | ビジネス現場で生じた課題について、人間心理や行動特性に基づいたアプローチで分析することができる | 組織を構成する個人の心理や行動メカニズムが理解できる | 心理学の基本的概念が理解できる |
| ビジネスに関わるさまざまな現象を実証的な方法論を活用して把握できる | ビジネス関連の諸現象を分析し、現状を客観的に説明できる | 与えられた課題に対して、データを収集し、分析できる | ビジネス関連の諸現象を客観的に捉える方法について理解できる |

別表3 経営学科の教育目標

KU I S学修ベンチマークに掲げている自律性、社会的貢献性、多様性理解、コミュニケーション能力、問題解決能力、といったグローバルな環境に適応し社会に貢献するための基礎的な力を、教育課程全体を通じて育成するとともに、専門科目を通じて以下の4つの力を身につけ、総合的に活用できることを目的とする。

- (1) 組織の運営方針や目標および経営の仕組みを理解し、組織のマネジメントについて現状と課題を説明することができる
- (2) 経営に関わる現象を、データを活用し科学的に分析して説明することができる
- (3) 業界や領域のもつ共通性と固有性について理解したうえで実際にマネジメントできる
- (4) 知り得た知識、経験を総合化し、実際の生活で活用できる

| レベル 目標 | レベル4 | レベル3 | レベル2 | レベル1 |
|---|--|--|---|---|
| 組織の運営方針や目標および経営の仕組みを理解し、組織のマネジメントについて現状と課題を説明することができる | 組織における利害関係を調整して合意形成を図り、組織経営の課題の解決策を提案できる | 組織経営の課題を発見し、その要因や背景について説明することができる | 組織経営のケーススタディを通じて、議論しながら成功と失敗の要因を理解できる | 組織経営におけるヒト・モノ・カネ・情報の重要性を理解する |
| 経営に関わる現象を、データを活用し科学的に分析して説明することができる | 収集したデータを分析し、考察を加え、経営の変化と今後の展望を説明することができる | 収集したデータを解析し、その中に潜む項目間の相関関係を把握し、特徴やパターンを説明できる | データの収集方法を理解し、収集したデータの処理（加工）・分析ができる | 経営分析に必要な指標を理解する |
| 業界や領域のもつ共通性と固有性について理解したうえで実際にマネジメントできる | 業界の現状を踏まえた上で、既存ビジネスの改善や新規ビジネスの企画について、実際的な提案をすることができる | 業界の現状を分析し、基本的な事業計画書を作成することができる | 業界の現状を分析し、成功と失敗の要因を評価することができる | 業界の歴史や現状が理解できる |
| 知り得た知識、経験を総合化し、実際の生活で活用できる | 知識・経験・振り返りの成果を総合化し、体系的にまとめた上で、生活上の具体的な問題の解決に活用することができる | 教室内外で学修した知識と、自らの経験とその振り返りの成果を総合化し、体系的にまとめることができる | 教室内外で学修した知識と実習等の経験を結び付けて振り返り、定められた形式でまとめることができる | これまでに学修した知識や経験をまとめて、学修ポートフォリオ等に記録としてまとめ、自己分析をすることができる |